

情報空知

発行：空知教職員組合
岩見沢市5条西12丁目1-9 電・Fax：0126-24-9419
E-mail：sorakyou@rose.plala.or.jp

つながろう・学ぼう・語ろう・踏み出そう

今年度1回目の学びT-SORATI



五月十七日(土) 秩父別温泉ちっぴ・ゆう&ゆにおいて、今年度初めての学習会(学びT-SORATI)を開催しました。参加者各々が日頃の実践を持ち寄る自前の研修内容でした。メインは、今年度の合同教研全国大会の国語科正会員の平村先生のレポート「書き綴ることは子どもの希望をはぐむこと」。

レポートの概略は、一、入門期の指導として①話し合いの教室②らがな文字の指導③話すこと書くことの下ざさえとなるクラスでの文化活動の実践、そして、二、入門期以降の作文指導として(書けるための手順)①テーマにそってたくさん話す活動②言いたいことを絵と短い文で③五感で短い文を長い文に④魅力ある文⑤長い文から焦点を絞る⑥読み合い受け止め合いと段階を踏んで、

小宮先生 学習会の企画・運営、ありがとうございます!!



このたびの書き立てに、全員の皆さん、参加者の集約。レポートの組織・・・等々、小宮先生には、お世話になりました。また、小宮先生には、全教共済にも加わっていただくことになりました。かえすがえすお礼を申し上げます。

が、いわゆる書ける子に育っていく過程を明らかにされました。まための三、保護者を支える綴りでは、子どもたちの書く活動が、保護者の中にも理解されて行く様子と、育児の悩み・生活の不安を抱えながら、懸命に生きる保護者に共感のまなざしで接している教師の姿が浮かび上がりました。

討議の中で、一貫して話し言葉を大切にしている教師の姿勢や、書くことと同時に、教室を豊かな体験の場にするためのたくさんの取り組みにも、参加者全員からの称賛の声があがりました。

そして、最終的には、子どもが、文を書く原動力は、なんといっても、それを読む他者がいることだという結論にたっしました。それが、教師であり、保護者であり、あるいはクラスの仲間同士かもしれないが、自分の書いたものを楽しんで読んでくれる人がいるということが大きな励みになるということでしょう。さらに言えば、このことは、なにも作文にかぎったことではありません。子供の成長にとって、身近に、よき理解者の存在が、必要不可欠であるということを再確認した討論でした。

レポートは、他にも、学級問題取り組みの

議事録は全面非公開～安保法制懇～

憲法解釈の変更による集団的自衛権の行使容認などを提言した安倍晋三首相も私的諮問期間期間「安保法制懇」の議事録について、政府は、24日までに全面非公開とすることを決定しました。首相に近い官僚や学者を集めた「お友達懇談会」に安全保障政策の大転換を提言させながら、議論の実態を国民に明かさないので、政府の説明責任の点でも重大な問題です。

私的懇談会ででありながら、国の形を大きく変える議論の中身が、国民に知らされない。国民や日本の安全を守るために、なぜ憲法の解釈を変えなければならないのか。明文改憲では、なぜだめなのか。これらの立法事実について、どんな議論がなされたのか、公開資料からは、全くわかりません。公開された議論趣旨から伺われるのは、結論ありきで緊感のない議論が交わされた様子だけです。

議事録すべてが不開示とは、国民にこそ隠れて改憲をすすめているのも、同然です。ここに、かつて麻生氏がいった「ヒトラーがワイマール憲法をかえたときのように、うまくやれないものか・・・。」と語ったこの政府の改憲の臨む本質が見透かされるのではないのでしょうか。

事例(小宮先生)・教育を取り巻く今日の情勢(川村先生)・生きつらさを抱えた子供たち(関屋先生)・土の学習(齋藤)がありました。時間の関係で、十分に検討できなかったレポートもあり、次回の学習会のお楽しみにとっておくことになりました。

学習会のあとは、企画第2弾「秩父別温泉の泉質調査」という名目で、温泉にゆっくりつかることができました。

当日最後の企画は、学習の慰労をかねたお食事会でした。豪華お料理を目にした男性参加者3人が我慢しきれずノンアルコールビールをいしそくに飲むめめしい様子もほほえましいものでした。

一人で悩まないで、お電話を!

「学校にいきたがらない・やめたいという・発達におくれが・いじめられる」などなど

北海道子どもセンター(札幌市東区北9条東1丁目2-22)

01260-603406(携帯電話からは、011-733-6606)

子育て・教育電話相談 月~金(10:00-14:00)



2014年夏は北海道へ！

第63回全国作文教育研究大会 (札幌大会)



大会キャラクター さくぶー



つづりん

作文の会全国大会が、
なんと、さっぽろで開催
されます！！めったにな
い機会です。ごぞって参
加ください！！

日程 2014年8月1日(金) 2日(土) 3日(日)

場所 北海道新聞ホール (8/1 全体会)

札幌市大通公園3丁目

北海道大学 (8/2・3 分科会・講座)

記念講演(8/1)道新ホール

演題 「子どもを見る目、社会を見る目、複眼を大切に」

～子どもは教師のまなざしからメッセージを受け取っている～

北海道文教大学教授 福井 雅英

特別講演 (8/3)北海道大学 総合教育部

演題 「本音を聞き出す」経営の十勝バスに学ぶ

～40年ぶりの利用者増は「自らを脇におくこと」から～

十勝バス株式会社代表取締役社長 野村 文吾

記念講演

「子どもを見る目、社会を見る目、
複眼を大切に」

～子どもは教師のまなざしから
メッセージを受け取っている～

北海道文教大学教授
福井 雅英さん



北海道教育大学教職大学院教授・
日本臨床教育学会副会長

生徒の自殺に関する調査検討委員
会(札幌)委員長(日24.9～12)

●小学校・中学校で現場教員とし
て長年豊かな実践をされ、荒れた
中学校での子ども理解を軸にした
実践は、全国の実践家に多くの示
唆と励ましを与えました。聴く人
をほっとさせる関西弁の語り口
の中に、本当に深い子ども理解・人
間理解、そして教育の再生への道
筋が見えてきます。

●平成24年9月に起こった札幌市
の中学生自殺に関する調査検討
委員長として、丁寧な調査検討を
重ね、子どもたちの生活や精神状
況、それらを受けとめられる教
師・学校・教育のあり方の方向性
といった報告書をまとめられまし
た。

●著書:『子ども理解のカンファ
レンス』『創造現場の臨床教育学』他
多数

特別講演

「お客様密着! で地域に貢献する十勝バスの経営
～40年ぶりの利用者増の実例～」

十勝バス株式会社代表取締役社長 野村 文吾 さん



■十勝バスがとった手法は「聞くこと」。お客様への訪問ヒヤリングや社長が社員から「本音」を聞き出し、語り合うことで、人員削減や経営合理化だけでは改善できなかった経営改善を成し遂げた。また、成功事例を積極的に発信するなど、地域の競合他社とも連携を計りながら十勝全体を活性化させようとする方法は、これからの教育行政においてもヒントになるだろう。

■業界全体がマイナス成長を続ける中、バス利用者増加のため、地域住民の家を1軒1軒訪問するなど、常識にとらわれない戦略で地方の路線バス会社として40年ぶり黒字化を成し遂げた経営手腕が話題となっている。

■昭和38年帯広市生まれ。函館ラ・サール高校、小樽商科大学を卒業後、国土計画(現・西武ホールディングス)に入社、企画宣伝に携わる。平成10年、父の文彦氏が経営する十勝バスに入社、平成15年に社長就任。帯広商工会議所副会頭、帯広観光コンベンション協会副会長、十勝地区バス協会会長。シーニックバイウェイ「トカプチ雄大空間」代表、道東道とから連携協議会会長など公職多数。

◆予約、宿泊に関するお問い合わせは◆

株式会社 近畿日本ツーリスト北海道 札幌法人旅行支店 「第63回全国作文教育研究会」担当デスク

〒060-0003 札幌市中央区北3条西2丁目日通札幌ビル6階 Tel: 011-280-8855 Fax: 011-280-2732

E-mail: s-convention-1@or.knt-h.co.jp (営業時間: 月～金 9:00～17:45 土日・祝祭日は休業)